

宮古民謡「なりやまあやぐ」 歌詞の意味を考える

仲座 栄三

私は宮古島で生まれ育った。子どもの頃、大人たちがなにかにつけよく口ずさんでいた歌が『なりやまあやぐ』であった。その頃は、この歌の意味がほとんど分からず、分かるのはさびの部分とされるところくらいのものであった。

最近になって、この歌の意味を考えるようになった。いろいろなと調べてみて、方言であるがゆえに、その解釈は多岐にわたるが、大方は前半の1、2番が、心なく遊びまぐる者への戒め、後半の3、4番が

なりやまあやぐ

1. サー なりやまや なりていぬ なりやま
すうみやまや すうみていぬ すうみやま
イラユマーン サーヤヌ
すうみていぬ すうみやま
2. サー なりやま 参いすてい なりぶり
ますな主
すうみやま 参いすてい すみぶり
ますな主
イラユマーン サーヤヌ
すみぶり ますな主
3. サー 馬ん乗らば たずなゆ ゆるすな主
美童家行き 心ゆるすな主
イラユマーン サーヤヌ
心ゆるすな主
4. サー ぶり寄し波や笑いと寄し
我フナリヤ 笑いと迎い
イラユマーン サーヤヌ
笑いと迎い

(國吉源次「宮古民謡特集」から引用)

歌の前半は教訓示す 成功称え、おごり戒める

果、私なりに、以下のような解釈に至った。ここに、その解釈を紹介し、この歌の意味を考える際の助としたい。

『なりやまあやぐ』の歌詞を4番までがあげているが、3番の後に「馬の美しさは、白きにある…」というような意味の歌詞が歌われたりする。さて、私が問

題とするのは、この歌詞の1番と2番の部分である。この前半部分は、後半の3番、4番と意味が大きく異なるように思える。この歌詞をよく読んでみると、全体的に五・七・五・七・七の五句体を基本とした短歌の形式になっているに気づく。1番は、五・七・五・七・七となっていて、2番は無理に読めば五・七・五・七・七ともなるが、どちらかというと、七・七・七・七・(五・七)七と都々逸の句体になっているようにも読める。

問題は、歌詞の意味である。3番、4番の歌詞は比較的やさしい方言であり意味も、読んでそのままの通りと理解できる。しかし、1番と2番の意味の解釈がやはり難しい。

私がたどり着いたという解釈は、次の通りである。『なりやまあやぐ』(成功者ヤマの歌(ヤマは、成功者を代表する人名である))

1. 成功したヤマは、成功したなりのことがあって、現在がある。
2. 義ましがっているあなたは、それなりのことがあって、現在がある。
イラユマーン サーヤヌ (そついうことだよさー) 義ましがっているあなたは、それなりのことであっ

この歌詞の意味は、和歌や短歌と同様に、聞き手、読み手にその解釈が委ねられていると思われる。それがゆえに、ここではあまり深入りしない程度の意味を与えてある。「イラユマーン サーヤヌ」はその響きという意味といい、単純には訳せないが、後悔の念を表しつつも一歩踏み出す勇気をも促しているようであり、諭す親心のように解される。「イラユマーン」に「サーヤヌ」が加わり、この2句のみで歌のすべての意味を語るものともなっている。

こうしてみると、全体として教訓歌(道歌)となっている。すなわち、この歌の1番は、成功した者の努力を称え、そうでない者の努力を促している。2番は、成功した者であってもその振る舞いに注意を促し、義ましがっている者の振る舞いの在り方をも戒め

ている。すなわち、努力することへの戒めであり、成功者の振る舞いに対する戒めでもある教訓歌と解される。必要最小限の言葉の繰り返しで、歌う者、聴く者に多様な深い解釈を促していると思える。例えるのなら、よく知られた俳句である「松島や ああ松島や 松島や」に当たるのではないだろうか。

対して、歌詞の3・4番は、1・2番の歌詞の意味とは大きく離れて、意味を直接的に表現するうたい方となっている。対比にも相違がある。したがって、それらの意味からは、古来うたわれた歌詞はその1・2番であるが、例えば、即興的に2・3番の歌詞が歌い加えられてきたのであろうと推測される。

以上のことから判断すると、『なりやまあやぐ』の原形は、その歌詞の1・2番にあり、他は後付けの歌詞でないかと判断される。こうしてみると、3・4番の歌詞と比較して1・2番の歌詞の意味は格別である。しかしながら、従来は、この歌のさびの部分、3番とされて、特に「馬に乗る際には、手綱をしっかりと」の意味が脚光を浴びてきたのではなからうか。しかしながら、本来の意は、これまでの一般

的な解釈とはまるで逆であったことになる。

以上のように、この歌の歌詞の1・2番は、宮古島古来の歌であり、他に類を見ない素晴らしい教訓歌と位置付けられよう。したがって、『なりやまあやぐ』は、その1・2番の歌詞のみで歌われることが推奨され、またそれで十分であるように思われる。

(琉球大学工学部・社会基盤デザインコース教授)